

カレッジ卒業生のみなさん、お元気で過ごしてのこととおもいます。“わ”(神戸市シルバークレッジ社会還元センター)発足一年余を迎え、九月十七日に臨時総会を開き、総括するとともに、こんこの活動を一層活発にするため「地域密着型」の展開、そのために各区ごとの情報連絡網の整備をすることにしました。といつても同期、同コースの連絡網が精いっぱいです。そこで全卒業生のご協力をえたく、資料を添えて一文を送ります。ご一読ください。

十月吉日 “わ”代表福原克巳

## “わ”の活動について

“わ”は卒業後も、社会に貢献する足がかりとして、特技や体験を生かす目的で設立。会員登録し、六部会で出発しましたが福祉ボランティアの要請が強く、福祉部会もつくりました。(詳細は同送の“わ”ふれあい三号、臨時総会資料を参照…ただし総会出席者は“わ”三号のみです。)現在一期生百七十三人、二期生百二十八人が登録しています。

## 地域密着とは

これまでの活動の反省として受け身でなく積極的に需要を引きだす。それが“わ”のPRにもなると考え

- ①各区ごとに連絡網をつくり(多人数区は複数ブロック、各区ボランティアセンターなどと密接に連絡し、地域の要請に応える
- ②地域での活動をするうちに特技、体験を生かした需要が生まれる。(各部の特性も発揮できる。)

活動には情報連絡が重要です。地域の連絡網(地域組織)ができると、毎年増加する会員になじみやすく、更に「私は地域でボランティアしているから“わ”にはいなくても」という方に積極的に加入していただけると思います。

## 第一回地区世話人会

運営委員会でおねがいをした地区世話人会を九月二十九日に開きました。そこでの質疑は次のとおり(詳細は二面)  
すでに各区に同窓会組織がある。連絡網が組織されているところは共通できないか  
同窓会は親睦が目的だが誰でも参加でき

るボランティアは同窓会とか“わ”とかいわずに「再び学んで他のために」の建学の精神でやったらどうか。などの意見もありました。

## 全卒業生になぜ呼びかけたか

“わ”に入っても声がかからない、“わ”は大上段にふりかぶっているなど。の声も聞いています。

地域密着、各区の情報網の整備がこうした声にも応え“わ”の活性化にも必要だとご理解がえられたこととおもいます。しかし最初に述べたように同期、同コースしかわからないというのが現実です。

ご承知の垂水区の舞子駅周辺のボランティアガイドは地区同窓会の場合から生まれまし。このように地区ごとにその特性を生かし、需要を引きだし、それが次の発展に結びつくことができると思います。

情報網作りに会員の皆さんの協力はもちろんです。加入を保留された皆さんも資料を読んで、積極的な応援をお願いします。更には加入の声をお待ちしています。



区ボランティアセンターとの  
連絡を密に

第一回 区世話人会開かれる

九月二十九日十三時三〇分、第一回区世話人会が「わ」事務局によりシルバールレッジにおいておこなわれた。

「わ」事務局から福原委員長、金川事務局長、胤艸企画委員、世話人側から大工原 馨氏（東灘区）、岡 雄氏（灘区）原田資三氏（中央区）、水原 勲氏（兵庫区）、浦上俊樹氏（須磨区）、内畑賢一氏（岩田重男氏代理・垂水区）、檀辻嘉雄氏（北区）、児玉 浄氏（西区）、【欠席】：橋本 豊氏（長田区）。

討議に際し、委員長から「わ」の実質活動は昨年十一月からで、その後、区ボランティアセンターからの要請も増加。

「わ」は六部会の組織で動いたが、出身コースの延長のような形となった。実際には福祉部会への要請が多いため、福祉部会を新設、活動していくなかで部会によって片寄るきらいがあったため、地域ごとの連絡を密にするため区ごとに世話人を設けることにした。活動の場は地域の中で見出す努力が望ましい、として世話人組織化主旨の概要を説明。

出席者の自己紹介のあと質疑・討議に入り、つぎのような発言があった。

運営委員会は十八名で構成、毎月一回

会合を開く。「わ」の機能を高めるため企画委員四名を設けた。世話人は各区ボランティアセンターを通じ連絡網の役目を果たしてほしい。（委員長）

会員に対する情報連絡の問題点について世話人から、それぞれの区の実情についてつぎのように説明。

垂水会における連絡がうまくいっていない実例として十人前後の連絡網組織化の現状を紹介。（垂水区）

須磨区ではコスモス会に入っている。「わ」との関係の維持方法を考える。今回の主意書の配布が望ましい。（須磨区）

中央区では活動可能の人数が分からない。小人数なので他区と合併して行動する方法、同窓会での対策検討などが考えられる。各区ともI期生が多い。II期生

は十分に考えて登録する時間がなかったのでは？、PRがさらに必要。（中央区）

連絡網をつくってもI期・II期間の連絡方法がむづかしい。また外部からの要請の数はどれぐらいあるのか？。（北区）

II期生では、親睦会に入っているが、「わ」には入っていない傾向がある。（西区）

カーボランティアは区単位では対応困難。全区対象、一本化の方が時間的対応もしやすい。部会からの独立も考えられる。（灘区）

I期生がパンジーの会をつくっており

II期生も加入した、親睦会である。（兵庫区）

パンジーの会は小人数により活動力不足のため、最近「わ」に加入。（企画委）

各区よりいろいろと現状説明や問題の指摘があったが、事務局としてつぎのように総括した。

区から要請があると、まず自分の所属部会に情報を流しやすく、タテワリ組織による片寄った人へのみ情報が流れるきらいがある。要請のあることだけでなく

われわれの特技を売り込む努力が望まれる。要請件数が多いが、全部には対応不可能。情報関係紙を全卒業生に送付して

呼びかけ、一挙に解決する問題ではないが、逐次進めていきたい。（企画委）

総会のアンケートからも情報不足、部会の内容不明など意見があり、従来の情報誌の形式にとられず簡単な方法での情報提供を考える。情報誌発送は経費の問題もあり検討する。（事務局長）

連絡網は十人単位、多人数区では複数世話人が望ましい。総会の報告「情報紙三号」と今回の「主意書」を号外として

全卒業生に送付する。（委員長）

次回の会合は十月三十日、十時二〇分より十二時二〇分。複数世話人の区は次回までに選定してほしい。

（文責・F横田）

